

令和５年度 第１回大口町保育所運営委員会 会議録

開催日時	令和５年６月２２日（木）午後１時３０分より
開催場所	健康文化センター １階 多目的室
出席者名	議会議員代表 ３名 民生委員・児童委員代表 １名 保護者代表 ６名 事務局 ９名
次 第	１ 健康福祉部長挨拶 ２ 自己紹介 ３ 委員長選任について ４ 協議事項 （１）令和５年度保育所運営費の概要について（資料 No. １） （２）新型コロナウイルス感染症の位置づけ変更について （３）令和５年度の保育所運営について ・ 園児数（資料No.２） ・ 年間計画（資料No.３－１～３－５） （４）各保育園の取り組みについて 保育園パンフレット（資料 No. ４－１～４－４） ５ その他

（進行：こども課長）

	１ 健康福祉部長挨拶 ２ 自己紹介 ３ 委員長選任
--	---

（進行：委員長）

事務局	４ 協議事項 （１）令和５年度保育所運営費の概要について（資料 No. １） 支出総額：７億７，１６６万円９千円 収入総額：１億７，５７２万５千円 差引額＝町負担分：５億９，５９４万４千円
-----	--

(支出について)

- ・報酬、給料、職員手当等、共済費、賃金、旅費等職員に係る経費になる。
- ・役務費について主なものとして、保育士の人材確保を目的に、人材紹介を利用して保育士採用を予定しており、採用となった場合には推定年収に紹介手数料を乗じた手数料を支払うために計上している。今年度、既に1名の採用を決定している。新たなものとして、秋に保育業務支援システム保育園通称 ICT システムの導入を予定している。保育園 ICT システムとは、アプリ等で園児の登降園管理や保護者との連絡帳機能などが行えるシステムである。導入により、保護者の利便性の向上と、事務業務にかかる負担軽減と効率化を見込んでいる。このシステムに必要な通信回線料や、ポケット Wi-Fi 代金などを計上している。
- ・委託料について主なものとして、社会福祉法人 宝光福祉会が運営している大口中保育園に対し、人件費や運営に係る事業費や管理費を支払うための民間保育所運営費委託料、農業体験事業 NPO 登録団体と共同して行うための共同委託料等を計上している。
- ・使用料及び賃借料として、新たなものとして、保育園 ICT システム利用のための初期費用と月額利用料を計上している。
- ・負担金補助及び交付金について主なものとして、大口中保育園の人件費に対し、委託料で賄いきれない部分を補助する民間保育所補助金、また新たなものとして、大口中保育園が公立3園と同様に、ICTを導入するにあたり、導入費用の一部を補助する保育対策総合支援事業費補助金がある。

(収入について)

- ・主なものとして幼児教育無償化や大口中保育園に係る経費や工事費の補助等
国・県からの歳入が8,427万8千円、保護者の皆様にお支払いいただいている保育料が6,703万円、延長保育を利用される方が支払う延長保育料や年少児以上の方にお支払いいただく給食の副食代等が2,441万7千円となっている。
- ・一人あたりの費用額は、令和5年4月1日現在の園児数を基に年間利用延べ人数をだし、支出総額を延べ人数で割ったものであるが、1人当たりが110,301円となり、そのうち町負担分が85,152円で全体の77.2%を占めている。また、保護者の皆様にお支払いいただいている保育料が9,596円で全体の8.7%となっている。令和元年度10月より始まった幼児教育保育無償化に伴い、保護者の負担が減り、町負担が増えた傾向が今年度においてもでている。

議会議員代表	・保育業務支援システムについては、佐名議員が昨年の一般質問で、導入してほしいと要望したものであり、導入してもらい感謝している。このシステムを活用して、保育士が本来あるべき子どもとの時間を作ったり、保護者とのコミュニケーションのツールとして活用し、大口町の保育の向上に発展していったほしいと思う。このシステムの運用は、一部の試験的運用か一斉に4園が行うのかお聞かせ願いたい。
保育長	・導入に関しては、秋くらいから大口中保育園を含めて4園同時にテスト運用という形で導入して、来年度4月より本格運用をするという計画で進めている。
議会議員代表	・近隣市町でこのシステムを導入しているところはあるか。
保育長	・犬山市、豊山町が導入している。
議会議員代表	・犬山市、豊山町と同じシステムを導入しているのか。
保育長	・豊山町は同じシステムを導入しようと考えている。
南保育園 父母の会副会長	・このシステムを導入することでメリットはあるのか、管理するのにあたり保育士の負担はないかということを知りたい。
保育長	・業務の軽減に、全国でこのようなシステムを導入しているところが増えてきている。犬山市、豊山町も視察してきた。保育士の生の声も聞いてきて、軽減につながっているとのことであった。 ・メリットは、登降園管理や欠席連絡をアプリを通じてできるようになるなど保護者の負担軽減にも繋がると考えている。 ・最初は使い方や管理の戸惑いはあると思うが、慣れていくとスムーズな運用に繋がると思うので、ご理解ご協力をお願いしたい。 (2) 新型コロナウイルス感染症の位置づけ変更について
保育長	・5月8日に新型コロナウイルス感染症の分類が変更された。分類が変わってもウイルスが消滅したわけではない。この先も感染する人が出てくる中で、陽性となった場合は、発生後5日を経過し、かつ症状が軽快して1日が経過することと国の方で定められた。保育園もそれに準じて掲示板で知らせてい

	るところである。療養を終えて登園する際には、インフルエンザ同様に登園届の提出をお願いしている。登園届については、公立保育園はほけんだよりを通じて、大口中保育園は掲示版にて知らせている。ご理解ご協力をお願いしたい。 ・感染後10日間は、ウイルスを排気するとされているのでマスクの推奨がされている。換気・消毒・3密の回避など、基本的な感染対策を行いながら、行事については子どもたちが楽しく過ごせるように、発達の保障ができるように開催方法などを工夫し、その都度お伝えしていく予定である。 ・分類変更からひと月ほど経ち、感染者数報告などがなくなり、コロナが少し意識から遠くなったように感じるが、今後流行の波が来るとも言われているので、状況をみながら保育園運営を行っていきたいと思っている。引き続き、ご協力をお願いしたいと思う。 (3) 令和5年度の保育所運営について
保育長	・園児数の説明（資料No.2） 令和5年6月1日現在の園児数は、定員790名のところ、607名が在籍している。内訳として、南保育園111名で8クラス、西保育園195名で11クラス、北保育園158名で9クラス、大口中保育園143名で9クラス、で運営をしている。今後、育児休業明けで仕事復帰をされる方など、途中入所のお子様を24名お預かりする予定になっており、合わせて、年度内631名の園児数になる予定である。転入や就労でお問い合わせいただいたお子様についても、毎月の入園審査会を経て、保育の必要性を認定し、入園案内をさせていただく。 職員数については、南保育園は33名、西保育園は51名、北保育園は46名、大口中保育園は37名で保育を行っている。保育士の配置は、途中入所児を含む園児数に対しての配置となっている。園長、副園長、クラス担任保育士の他に、加配保育士、週休・休憩対応などの保育士、調理員、管理栄養士、看護師、事務員も必要に応じて配置しており、大勢の専門職員で大切なお子様をお預かりしている。
保育長	・年間計画の説明（資料No.3-1） 入園進級式でお配りした「ことしのあゆみ」に、主たる行事が載せてある。保護者の方に参加いただくものには○印がつけてある。中段に「クラス名」「帽子の色」、右側に「園生活の1日の流れ」を載せてあるので参考にさせていただきたい。下段には、「毎日家庭で行える子育て3か条」が載せてある。これは

南保育園園長	学校用の子育て10か条をもとに、(平成27年度に)保育士と幼稚園教諭で作成した。「子どもに笑顔であいさつをしましょう」「子どもの目を見て会話をしましょう」「子どもをギュッと抱きしめてあげましょう」一番基本的なところではないかと思う。保護者の方も忙しい毎日であると思うが、気に留めていただけると嬉しく思う。 ・各保育園別の年間計画(資料No.3-2から3-5) 保護者の方には4月末に配布した保育園別の年間計画である。例年、運営委員会後に配布していたが、今年度は早めに配布させていただいたので、予定を立てるときに利用してもらいたい。 (4)各保育園の取り組みについて ・南保育園(資料No.4-1) 南保育園は、6月現在未満児34名、以上児77名、合計111名のお子さんを預かっている。園の周りは田畑に囲まれており、田植えが終わったばかりの田んぼからはカエルの合唱が聞こえてくる。また園舎につばめが巣を作り、親つばめが一生懸命子育てしている姿を間近で見ることができる。そんな自然豊かな環境の中で子どもたちは元気いっぱい過ごしている。 「豊かな心と丈夫なからだでよく遊ぶ子ども」を子ども像に掲げ、大勢の友達と集団で過ごす中で互いに育ち合える場として、また、子ども一人一人の気持ちに寄り添い、様々な体験を通して豊かな心を育む保育を目指している。 SDGsを意識した活動について SDGsの取り組みを始めて今年度は3年目となる。南保育園では、持続可能な開発目標の17のゴールのうち、No4「質の高い教育をみんなに」とNo11「住み続けられるまちづくりを」No17「パートナーシップで目標を達成しよう」の3つの目標に向かって取り組んでいる。今年度は「住んでいる町について深く知り、地域の人と触れ合うことで豊かな心と地域への愛着心を育む」ことを目標にしている。内容としては、大口町の南部地域にまつわる話を、歴史民俗資料館の学芸員の方を招いて話を聞いたり、実際に現地に出かけたりする活動を継続して行っている。新たな取り組みとして、現地での活動に地域の方も参加していただき、安心安全な環境を確保する中で一緒に話を聞いたり、現地での散策をしている。今年度はすでに2回ほど活動ができている。また、園周辺の農道を散策しながら、草花で遊んだり、散歩マップを作成したり、豊かな自然にたくさん触れて、子どもたちの好奇心や興味が膨らむような取り組みを行っていく。そのような経験を活かして「郷土愛かるた」が作成できればと考えている。
--------	---

南保育園 父母の会会長	地域交流について 地域の老人クラブの方との交流会は、先ほど説明したが、園のSDGsの取り組みを理解していただきながら進めていきたいと思っている。地域の方々との交流で保育園を知っていただく機会にもなっている。 食育サポートとの食育交流事業について 南食育サポートの方にご指導をいただきながら、引き続き行っている。じゃがいも掘りやさつまいもの苗植えを体験した。今は、夏野菜が食べ頃であり、子どもたちが畑にでかけて収穫してくる。収穫できた野菜を給食の食材に取り入れ「食べる喜び」「人や物への感謝」の気持ちを育てていきたいと考えている。 体力づくりについて 園庭には、ジャングルジム、登り棒、滑り台、八角塔、雲梯、鉄棒など、固定遊具がたくさんある。固定遊具で伸び伸び遊ぶ中で、年齢に応じた体と心の豊かさを育てていきたいと考えている。遊具を使って「登る」「滑り降りる」「ぶら下がる」「乗り越える」「揺れる」という様々な動きを経験する中で、バランス感覚が養われ、挑戦する心が育っていく。「一人でできた」という達成感、充実感を味わい、自信に繋げていく。 木育活動について 木に触れ、木で作る、木で遊ぶ「木育」を通して、子どもたちの心と体を育んでいる。園庭には桜、イチョウ、藤などの木があり、四季折々の姿を間近で見ることができている。自然物を使った製作活動や年中児では親子で箸づくりを経験する。 今後も、保育園と地域と家庭が手を取り合って一緒に子どもたちを育てていきたいと思っている。 ・南保育園 父母の会の取り組み フォトレコの写真販売は、保育園と相談して、撮影を3回行った。今後7～8回予定している。写真販売については、1月ごろまでに3～4回行う予定である。 父母の会主催で6月14日にバザー品の販売、15日にゲーム会を行った。8月に保育園主催の夏祭りに、父母の会で出店を行う予定である。今後のお楽しみ会については、秋と冬の2回を予定している。 11月のオイスカに向けて、エコキャップや空き缶の回収を予定している。 読み聞かせボランティア「ともちゃんズ」を5回行う予定。保育園と相談中であるが、父母の会役員に年度末にありがとう会ができればよいと思っている。
------------------------	--

西保育園園長

・西保育園（資料 No. 4－2）

西保育園は、6月現在3歳未満児65名、3歳以上児133名、合計198名のお子さんを預かっている。5月に新型コロナウイルスが5類に移行し、子どもたちのマスク着用も減ってきた。顔がわかり、表情の変化も一層読み取れるようになり、子どもたちの喜怒哀楽を共に感じ理解し、一人一人の気持ちに合わせた保育を行えることを嬉しく思っている。胃腸炎、ヘルパンギーナ、風邪症状など感染症にかかる子も多く、欠席者が増えることもあり、心配なこともあるが、健康・安全に留意しながら保育を行っている。

保育目標として、「豊かな心と丈夫なからだでよく遊ぶ子ども」という子ども像や保育目標を基に、年齢に応じた目標を立て、一人一人の気持ちに寄り添い、様々な経験を通して豊かな心を育む保育を目指している。

SDGsを意識した保育活動では、地域の食育サポートの方々と一緒に畑で野菜を育て、その野菜を給食に取り入れていることから、持続可能な開発目標

12番「つくる責任つかう責任」のSDGsに取り組んでいる。「食に対する感謝の気持ちを育み、給食の残食を減らす」を目標に「給食の残食0をめざそう」と子どもたちと取り組んでいる。

畑での野菜栽培、収穫体験を通し、食べ物に関心を持てるようにし、つくった野菜はつかう責任として給食に取り入れ、美味しく頂く。また、「給食Gs」と称した年長児の園内放送を行っている。本日の「給食Gs」である。

『献立』：ごはん 鶏の南部揚げ グリーンサラダ 合わせ味噌汁

『給食に入る野菜』：おやつに粉ふき芋でジャガイモが入ります。

『収穫した野菜』：ありません

『園児の欠席人数』：20人（病と自己半々）

『年長児からの食育メッセージ』：残食が昨日より少なくなるといいですね。

などを伝え、園児、職員みんなで「食育や残食0」に意識を持てるようにしている。取り組んで3年目となる今年度は、引き続き「給食サンプルの展示」「残食量の掲示」「親子での収穫体験」などを行い、保育園から家庭へ「フードロス削減の意識」をつなげていきたいと思っている。

食育では、SDGsと重なるが、園舎東にある畑「西保ファーム」で、食育サポートの方と一緒に野菜作りをしている。『苗植え』『水やり』『草取り』

『収穫』『収穫後の後始末』など様々なことを経験することで、「野菜作りの大変さ」「収穫の喜び」「食べることへの感謝」などを味わい、食に対する感謝の気持ちにつなげている。食育サポートの方と一緒に行うことで、食育サポートの方にもフードロス削減に関心を持っていただけるよう働きかけてい

西保育園 父母の会会長	る。 木育では、木造の未満児園舎や回廊があり、子どもたちは木に親しみを感 じ過ごしている。保育園近くの白山ふれあいの森にも散歩に出かけ、ヒノ キ、スギ、シラカシなどいろいろな木に触れている。また自然物を使って遊 んだり製作をしたりして楽しみ、年中親子では「マイ箸作り」も行う。子ど もたちが木の香り、感触、音、暖かみなど五感を使って感じ、体験する中 で、自然や人の命を大切にする心を育んでいきたいと思う。 体力では、芝生園庭や園庭の大小2つの山で「走る、跳ぶ、山の上り下り など」を楽しみ、広い回廊では「手足を使う」など様々な運動遊びを行って いる。園近くにある歩道橋でも階段の昇り降り、散歩に出かけては年齢に応 じた歩き方をし、体幹を鍛え、柔軟な体を作り、心身のたくましさを養って いる。 郷土を愛する心を育む活動では、余野地区にある「山姥物語」や「白山ふ れあいの森古墳群」について歴史民俗資料館の学芸員より話を聞いたり、現 地に行ったりする中で、身近な郷土を知らせ、町の歴史を知ること自分の 住んでいる町、大口町に関心、愛着が持てるようにしていきたいと思ってい る。今年度、年長児は「小口城」についても話を聞き、更に広く学んでいき たいと思っている。 今後も地域の方の手をお借りしながら、地域、保育園、家庭が一緒にな り、共に子育てをしていきたいと思っている。
北保育園園長	・西保育園 父母の会の取り組み 父母の会の年間行事予定として、フォトレコの販売撮影をする。保育園での 子どもたちの様子、七夕、夏祭り、遠足、サッカー教室、オイスカ、秋祭りの 撮影、父母の会イベントとんとさんの大道芸イベントの撮影と計8回フォト レコの販売も予定している。夏まつりでは、父母の会で魚釣り屋さんとして参 加させてもらう予定である。 今後のイベントは、ダッシュマン、スナメリ体操、とんとさんの大道芸を予 定している。イベントを行うにあたり、3回公演してもらうようお願いして いる。 ・北保育園（資料 No. 4－3） 北保育園は6月現在3歳未満児50名、3歳以上児 108名、合計 158 名のお子さんをお預かりしている。 SDGsを意識した保育活動として、「園舎を大切にする」という目標を掲げ、 SDGs 12番の「つくる責任 つかう責任」と15番の「陸の豊かさも守ろう」

を行っている。内容として、「つくる責任 つかう責任」では、建設していただいた園舎を、生活し使っている責任として、「傷んだところはなおす」という園舎のメンテナンスを行っている。回廊の外階段を子どもたちと一緒にきれいに磨き、紙やすりを掛けてなおしていく活動が続けている。「園舎を大切にする」「いつまでも長く使う」という気持ちを持ちながら行っている。「陸の豊かさを守ろう」では、山のない大口町 がいろいろなつながりで山とのつながりを持てるようになっている。建設で木材をいただいたタイム技研さまとのつながり。年長児がタイム技研さま所有の山「21世紀創造の森」に遠足に出かけ、現地で散策をしたり、木の皮剥ぎ体験をするなど、貴重な山の体験をさせていただいている。今後もつなげていきたいつながりだと思っている。園庭にある1本の桜の木、五条川の桜、そして町の花が桜であるという「大口町や桜のつながり」を子どもたちに伝えていく。それらのつながりから「山や木を知る」しいては「樹、自然、命を大切にする」ということを目標に、取り組んでいる。どちらのSDGsも特別なことではなく、今まで行ってきた木育をSDGsに捉え直したものである。無理をせず自分たちのできることを行っていきたいと思っている。

木育では、SDGsの取り組みに加え、親子マイ箸づくりを行っている。保護者の方も木に触れ、親子で一緒に取り組んでいる。また、木曜日を『もくもくの日』として、木に関する絵本の読み聞かせや、自然物を使った遊びのコーナーを楽しんでいる。なかでも木片に紙やすりがけをしてつくる“森のお守りづくり”は大人気で、木片がツルツルになっていく様子を見ながら、夢中になって紙やすりがけをしている。

食育では、地域の方と一緒に畑で野菜を育て、収穫し給食に取り入れている。今年度より『きたきた食育サポート』がスタートした。食育サポートの方と交流しながら、「育てる」「収穫する」「食べる」という農と食の体験を通して「育てることの大変さ」「収穫の喜び」「野菜をいただくことへの感謝」など子どもたちの豊かな心と生きる力につながるよう取り組んでいる。

体力作りでは、芝生園庭で、体を十分に動かす「全身運動」、走ったり跳んだりして「足腰を鍛える」ことを目標に子ども達の体力作りに取り組んでいる。固定遊具がなくて心配される手や腕を使うこと（握る、引っ張る、支える、押すなど）も、広い回廊や室内を有意義に使い、遊び方を工夫しながら、意識して取り組んでいる。年長児は、毎日回廊の雑巾がけを行い、手、足、体幹を鍛えている。

地域交流では、人を思いやる優しい心、人に親しむ心が育つことをねらいとして行っている。きたきた食育サポートの方との野菜作りを通じた交流や、地域の方のカモミール畑へお邪魔して種まきや花摘みを行っている。北保育

北保育園 父母の会副会長	園ふれあい交流会の方には、園舎の油ふきでお世話になっている。日ごろお世話になっている地域の方との交流の機会の一つとして、七夕会へ招待している。今後も気軽に保育園に足を運んでいただきける関係づくりをしていきたいと思っている。子どもたちと地域、保護者、保育園がつながり、一緒になって子どもを育てていく「子どもを真ん中においたまちづくり」を目指していきたいと思っている。
大口中保育園 園長	・北保育園 父母の会の取り組み 現在決まっている父母の会の活動としては、7月にメリおっと！体操の参加、8月にヤクルト教室で健康のための正しい食生活、生活習慣についての話を聞く予定である。今後の予定で、まだ決まってはいるが、忍者体操、消防署や警察署にお願いして、防犯や交通安全、防火について話を聞く経験ができるようにしていきたい。また、ダッシュマン、パフィーちゃんの風船遊びも呼んでいきたいと思う。フォトレコでの写真撮影と販売もしていく予定である。保育園と相談しながら、無理のない計画をしていきたい。オイスカに向けてのエコキャップとアルミ缶の回収を行っていく。行事のプレゼント手配も行っていく。畑の草引きも役員が交代行っている。 ・宝光福祉会大口中保育園 （資料No.4－4） 令和5年度6月1日現在、大口中保育園では年長児2クラス39名、年中児2クラス39名、年少児2クラス27名、3歳未満児は37名の合計156名の園児をお預かりしている。職員は、看護師・調理員を含め計37名である。 保育目標に「豊かな心と丈夫な体でよく遊ぶ子ども」を掲げ、私たちが考える豊かな心とは、自分のありのままの姿を認めてもらうことで安心し、見たことや考えを自由にイメージでき、素直に伝えたり行動に移せる子どもたちになるよう保育を行っている。 保育園では、1年を通してさまざまな行事やイベントがある。運動会や発表会などの保護者の方にも参加してもらうイベントから、子どもたちに伝統や季節の移り変わりを伝える行事まで、月ごとに季節にちなんだ様々な行事を企画している。行事やイベントを通して子どもの情緒を育てたり、子ども同士のつながりを強くしたり、また、日頃の保育の様子を保護者の方に公開し成長を実感してもらうなどの目的を持って取り組んでいきたいと思っている。 次に、発達を踏まえた主なねらいを年齢別に載せてある。どの年齢の子ども達も、戸外遊びが大好きで、探索活動を楽しんでいる。子どもの探索活動は見たり触れたり、また 言葉で教えてもらうことを通じて知り学ぶことができ

る。園の周囲には、五条川遊歩道、小口城址公園・多世代が集う憩いの場など、近くに自然が豊富にあり、積極的に散歩に出かけ、四季折々の自然に触れる機会を作っている。特に3歳未満児は、保育園生活でも日常生活や活動を通じて「見る」「聞く」「触れる」「知る」事で子ども達の学びに繋げていきたいと思っている。

保育形態として、「遊び中からの学び」を保育の柱として、一人ひとりの主体性を大切にする保育を行っている。コーナー遊び「遊びのミュージアム」は、子ども達が主体的に生活でき、自分からやりたいことを見つけ、意欲的に取り組むことができるように保育室や園庭に色々なコーナーを設置し、自分で活動を選べるように工夫している。子どもの成長、発達、やりたいことに合わせた活動を「見守り」を重視しながら子ども達と関わっている。現在子どもの人気コーナーは、室内では「廃材を使った制作コーナー」戸外では、泥団子作りである。

大口中保育園の一番の特色は、体力作りである。年齢の発達に合わせて、毎朝のサーキット遊びや体育専門の講師による運動遊びを取り入れ、健康な身体作りと体を動かす楽しさを味わっている。「やってみたい」「できるようになりたい」と思えるように導き、「できた」という達成感・満足感を自信へと繋げていく。運動は苦手だと感じる事がないような取り組みや言葉掛けに配慮し、誰でも楽しく参加できるようにしている。手にはがんばりまめをいっぱい作りながら自分なりの目標を持ち挑戦している園児も多い。体操教室の他に、夏はプール教室・秋冬にはサッカー教室も体験できる。

食育活動について、食べることは生きることの基本である。そのため、まずは「楽しく食べること」が大切だと考えている。季節の食材に触れること、料理を作る人と関わることを通して、食への関心を高める活動も行っている。保育園の園庭では、年長児が一人一鉢プチトマトを育てている。保護者の方にも一緒に生長を楽しんで頂いている。年少・年中児もプランターで夏野菜を育てており、ピーマン・インゲン・ナスなど収穫を楽しんでいる。また、畑では6月にさつまいもの苗植えをし、10月の収穫を楽しみに水やりや草取りなどの世話を頑張っている。収穫した野菜を使ってクッキングなども計画をしている。未満児の給食の配膳やクッキングのアドバイザーとして調理員にも参加してもらって関りが持てる様にしている。また地域の方に田植えの経験をさせてもらったり、公共施設の花壇の花植えに参加するなど、様々な活動を通して、交流を行っている。支えあう地域づくりを学び、思いやりの気持ちを育んでいる。

大口中保育園 父母の会副会長	読み聞かせボランティア『メリーゴーランド』による絵本の読み聞かせなどもある。 食育の一環として、和菓子作りを行っている。和菓子作りを通して、日本の文化に触れ、和菓子の形や材料などにも興味を持つことができるきっかけになればと計画している。 ホームページでは、園の紹介や月1回行事や生活などの様子を更新しているので、見て頂けたらと思う。 その他の事業として、一時預かり保育を行っている。今年度は、昨日までの約3カ月間で延べ160人の利用があった。利用理由は、保護者の方のリフレッシュが一番多く、他に就職活動や仕事、通院のために利用されている。 その他、課外活動として毎週月曜日、年中・年長・卒園児を対象に「ダンス教室」がある。
南保育園 父母の会会長 保育長	・宝光福社会大口中保育園 父母の会の取り組み 父母の会のイベントとして、4月にミニバザーとして卒園児のスモック・体操服の販売を行った。6月に風呂敷を作り午睡開始前に販売を行った。その収入で、七夕会に使う園児のおかしや玩具などを購入した。また父母の会がキャラクターのビニール風船のブースを出す予定である。今後の予定として、8月にビックバザーとして保育園の遊戯室で開催し、バザーやゲームを行う。そこで講師を呼んで、親子のパン教室も行う。10月に運動会のプレゼントを出す。11月に年長児対象にパン教室を行う。12月にクリスマスのプレゼントを考えている。2月頃にハロー！どっこくん体操のイベントを行う予定である。
南保育園 父母の会会長 保育長	・障害の子達が増えてきている。北保育園は、親子通園をしているが、その子たちにどれくらいアプローチをして、どのようなサポートをしているのかお聞きしたい。 ・親子通園は大口市の事業として行っている。保健センターでの健診を受けた後、子どもの苦手感、困り感に保護者が子どもと向き合い、かかわり方などのコツを知っていただくために、親子一緒に親子通園施設に通っていただく。親子で通うことから始め、その後子どもだけで時間を過ごす親子分離をし、先の就園を見こして保育園のクラスで交流を行う。子どもの発達に応じて、その後、保育園あるいは幼稚園に入園という形で進めている。

こども課長	・職員配置が決まっている中、保育園入園後に加配保育士が必要な子には担当をつけることができるのか。 ・見通しをもって入園までの療育計画を立てているので、あらかじめ人数配置を行い備えるという形にしている。
南保育園 父母の会副会長	5 その他 ・タイム技研の丹羽会長が渋沢栄一賞を受賞された関係で、大口町の各保育園に和太鼓の寄付をいただいた。子どもたちが和太鼓に取り組んでいるので、機会があれば見ていただきたいと思う。
保育長	・各保育園の取り組みを聞き、SDGs など真剣に取り組んでいると感じた。個人的な意見として、ペットを扱う仕事をしている。今、動物アレルギーの関係で小学校は動物の飼育をやめる学校が増えている。動物を見て触ることは、命の大切さを身近で感じられる。現在、若い人の犯罪が増えている。心を成長させることも大事だと思う。保育園の年代は、一番感受性が豊かな時期である。一回の体験でもよいので、生き物を通じて学ぶきっかけがあるとよいと思う。父母の会で移動動物園の案を出したが、予算やアレルギーの問題などがあり、難しいとのことであった。大口町の保育園は、移動動物園が来て、動物とも触れ合え心も豊かになる、そんな取り組みもあると楽しみもできるのではないかと思う。
南保育園 父母の会会長	・貴重なご意見をありがたく思う。
保育長	・動物アレルギーの他に食物アレルギーの子もいる。保育園では、その子達に配慮して、関連するイベントは父母の会の活動でもやめようと言われてしまう。今後、何も触れずに生きていくことはできないので、何もしないにしてしまうのはいかながなものか。お互いに歩み寄りながら、やりたい子は参加するなどアレルギーのある子とない子の間の方法を取り入れていけないか。
議会議員代表	・アレルギーの子は増えてきている。保育園という集団の場なので、特に給食はみんなが同じものを食べられるようにと配慮しながら進めている。ご意見も参考にさせていただきながら行っていきたい。
こども課長	・アレルギーや発達障害の話もあったが、本人も気を付けるが、周りの理解が

大事だと思っている。アレルギーを本人は気にしている。周りにも情報を伝え一緒にサポートしていく環境は、子どもたちの成長には大切だと思う。いろいろな問題はあると思うが、周りが理解してやっていけるような保育園になるとよいと思う。

閉会の挨拶